

# 甲陽だより

## 甲陽に幸あれ

甲陽学院同窓会会長 宮崎 武男

新しい年を迎え、会員各位にはますます御清栄のことと賀し上げます。さて、昨年夏の会則改正後の第一回会員大会は、初の試みとして校外で行われました。これまでの総会は校内で行われ、また会計報告・役員改選等が主となっていたのでありますが、会則改正後は、これらのことはすべて委員で形成される定時総会に委ねられることになり、この大会からは、それが一切なくなり、ただ旧師先輩後輩がすべて一堂に会し、或るいは酒を酌み交し、或るいは懐旧談に花を咲かす等、なかなか雰囲気は懐旧談に花を咲かす等、なかなか一方においては、委員の方々の真面目な討議により、学校並びに法人と共に進む同窓会となり、また他方、大会ではこのように会員相互の親睦を計りながら母校への思慕を感じ取れる同窓会として、この二つが両々相俟つて皆々様のご協力により、五十周年をエポックとしての同窓会の一種の脱皮と言ったような形を成して参つたことは、まことに同慶の至りと申す他はありません。と同時に、併せてまことに喜ばしいこととして会員の皆様にご報告できますことは、辰馬育英会長殿また林校長先生の同窓会に対するご好意溢るるご協力により、我等の同窓会の専用の部屋が校内に設けられたことでもあります。

一昨年五十周年の記念事業の際、会員の中から同窓会館云々というご意見も出たのでありますが、とても最初の募金運動として取り上げるべく余りにも大事業であつたに違ひなかつたと今でもその可能性は恐らくないのではないかと考えますが、しかし、我々が母校を訪れたとき、すくなくとも立寄つて自分たちのものとしてみえたいものが欲しいという希望の現われだつたと思つております。それが実現したのであります。我々が思つていたよりの好意によつて改装され、部屋が一新した姿で皆様の目の前に現われ、すぐに利用を始めております。最初に出来た我々のこの部屋が将来の同窓会館を夢見させてくれております。会則改正による会費の納入もステップに進行しております。そして、新山さんというご婦人の方が週二回出て来られ、同窓会の事務を見てもらつております。合田常任理事もボランティアに一役買つて出て、やはり週一、二回は来て頂いております。そして、着々と部屋の整備が出来つつあります。これらのことは、法人並びに学校ご当局のほんとうのご好意であります。このご好意に絶大な感謝を捧げると共に同窓会をますます確固たるものにしようではありませんか。最後に同窓会員の皆様にお願ひしたいことは、

- 1、会費の納入（これが一番大切）
- 2、学校への訪れ（母校とのつながりを深める）
- 3、大会への参加（恩師・先輩・後輩・朋友と語る）
- 4、住所氏名の通知（連絡を密にする）
- 5、在校の諸君との精神的な繋り

（出来れば物質的にも）  
これらのごことをお互いの協力により盛り上げて行こうではありませんか。（多謝）  
甲陽学院、育英会、同窓会ばんざい。

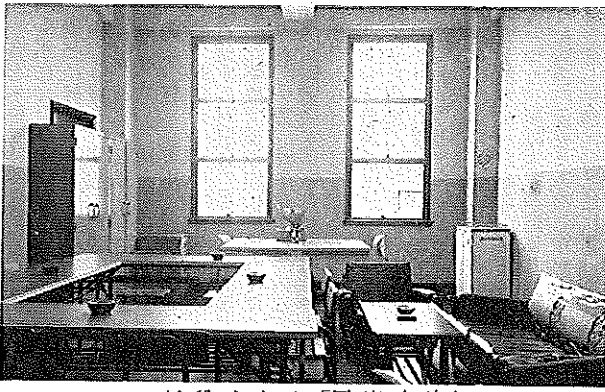
発行所  
〒宮中市甲子園東線3番7号  
甲陽学院同窓会  
電話西宮(078)410522番0623番  
郵便番号 662  
編集人 宮崎武男  
印刷所  
株式会社 紺谷印刷所  
大阪府生野区生野田島町1-537  
電話大阪(758)2565番

### 続 甲陽学院便り

学校長 林 連一

昨年七月に刊行された甲陽だより第八号で申し上げておきましたコンクリート建て約五〇坪（一六〇余平方メートル）の高校運動部のクラブ室十個と体育準備室が予定通り七月末に完成を見ることのできた。場所的制約もあつて十分ゆとりのある部室とは言えませんが従来よりはるかに便利になつた点において生徒たちも一応満足してくれているように思ひます。

こうした部室の完成と共に本館内にあつた部室等があいたため、教室や物置き等に多少のゆとりが生じて来たので、辰馬会長さんや理事長さんたちのご諒解のもとに、本校舎内でも、通風といい、採光といい、申し分のない明るい部屋で、冬暖かく夏涼しい、そして外から来られても、誰に気兼ねすることもない気軽で居心地の良い便利な場所をと、いろいろ考へた場句、本館南端一階の南人口から入つた二つ目の部屋を同窓会本部に使用して貰うことに決定いたしました。



新設された「同窓会室」

この部屋は若い同窓生の方たちは良くご存知の旧野球部の部屋を改造したものです。床板もすつかり新しく張り替え、壁も修理して塗り替え、窓硝子等も全部新品に取り替へるなどしたのである部屋がこんなに美しくなつたのかと見違へるほど立派になりました。折角同窓会に使用して頂くのに、ある程度ご満足してもらへる部屋でなくてはと、いろいろ考へたのですが、手前味噌のようではございませぬが、私自身一人で自己満足いたしておるような次第です。

創立五十周年を契機として新しい同窓会会則が作られ、今また、狭いながらも母校の中に同窓会本部の一室が設けられるなど、これからの同窓会活動には一段の飛躍が期待されているように思われます。不肖私も学校長として、同窓諸先輩の跡を継ぐに足るだけの立派な青年たちを育成して参りたいと考えておりますので、同窓各位の今後の一層のご発展と母校へのご支援ご鞭撻をお願い致します。

目下各大学では、ご承知の如く、それぞれ学内の事情もあつて、これが学生の政治活動などからんで、複雑な形の学生運動が展開されつつあります。最近ではこれが高校への影響も次第に高まつて参りまして、法的にいても高校生には許されない政治活動にまでも深入りする生徒が次第に増えつつある現状であります。本校の生徒の中にも、こうした外の動きに相当の関心を持っている者もおるようでありまして、この点同窓会諸兄にも何かとご心配を頂いているのではないかと思ひますが、幸い、現在のところ、皆よく自重してくれまして、飛び跳ねた行動に出るような見守りながら、勉学に運動に堅実な歩みを続けておられますので、この点ご安心下さい。

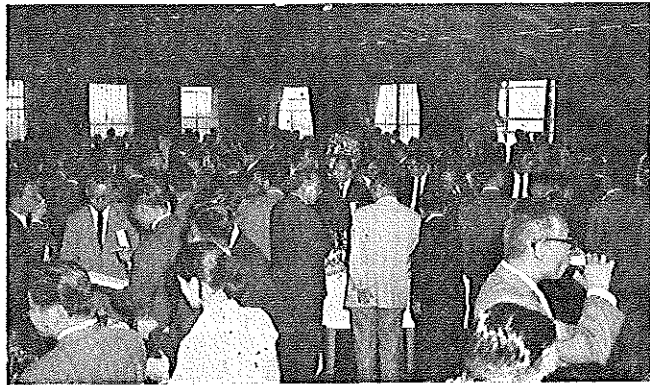
新しい年を迎えた冬日のひと時を私は只今中学の校長室で久方振りの雨の足音を窓外に聞きながら、甲陽に御世話になつてからの越し方四ヶ年を静かに反省しつつ、また、思いを遠き将来の甲陽の上に馳せながら、この甲陽学院便りを認めて参りましたが、終りに臨み同窓各位の今後一層のご活躍を祈念いたしまして筆を擱くことにいたします。

# 会員大会報告

同窓会新会則第十九条に則り、新生第一回の会員大会が宝塚ホテル五階のホール宴会場において華々しく開催されたのは昨年八月十一日の日曜日、午後二時であった。

その名も懐かしい宝塚ホテルは、一昨年母校の創立五十周年記念パーティが同窓会主催の下で盛大に行われた会場である。当日は真夏の晴天、従来の総会につきまといつた堅苦しい予決算・行事予定等の審議議決などは一切抜くことになつてゐるためか、参加者は定刻前はやくもホテルロビーに姿をみせ、三三五五旧交をあたためるなごやかな風景が散見された。当日、出席された法人役員、現旧教職員同窓生の総数約二百名。会場内には懐かしい山田在夫作詞の甲陽学院高等学校々歌(旧制中学校々歌)ならびに最近、創立四十周年の記念としてつくられた竹中郁作詞の甲陽学院のうたが録音されているテープが、静かに流れる中、第一回会員大会は合田孝治理事の司会で始まつた。

新しい同窓会の運営を新会則に則り地道に続け、軌道にのせられたのは当日司会を担当された第一回生の合田氏であるが、氏は新し



第一回「会員大会」の盛況

## 辰馬吉男氏

### 「西宮市民文化賞受賞」

本院育英会会長辰馬吉男氏は、この度昭和四十三年度西宮市民文化賞を授与されました。

西宮市民文化賞は、西宮市が毎年、学芸・芸術・体育・社会事業・生活文化などの分野で功績のあつた個人・団体に贈られるものであります。

辰馬会長の受賞されたのは、昭和十二年家督を継がれて以来、市内食品工業の発展に貢献されるかわら、学校法人辰馬育英会の教育事業に参画されて甲陽高校・中学の発展に尽力されたこと。更に昭和三十八年には香炉園テニスクラブを創設して、体育の振興にも寄与されたこと。一方、西宮市に対しても昭和十四年に公共事業資金として百万円を寄付されるなど、市立図書館拡張や震災復興事業に多額の寄付をされ、公共事業の推進に寄与されたことなど、数々の功績によるものです。

表彰状は、昨年十一月三日の「文化の日」に西宮市立勤労会館で行なわれ、西宮市長から表彰状が贈られました。

今回のご栄誉に対し、わが同窓会一同、衷心よりお祝を申し述べるとともに、いよいよご健勝にご活躍あらんことをお祈りしたいと思います。

い抱負をも併せ述べられ、ここにパーティは華やかにくりひろげられた。

開会の辞 友国 説郎副会長  
 挨拶 宮崎 武男会長  
 辰馬 修一理事長  
 林 連一校長  
 乾 杯 芥川 潤前校長

の順で祝詞がつづいたが、なかでも宮崎会長は当面する同窓会の現状と諸問題について意欲的な姿勢で積極的に解決してゆく意向を述べられ、一方、林学校長は年内に高等学校校舎内に同窓会本部室を一室用意することつもりであるとして、参集した同窓生の意を強くした出来事でもあつた。宴たけなわにして今年度卒業生を中心とする学生諸君の同窓生に対し、旧い先輩の各位が卓上のオードブルを少なからず分け与えるという微笑ましい姿を繰りまぜながら、宴席も次第に高潮していった。辰馬本家酒造より過分の寄贈をうけた清酒白鹿をくみ交しながら甲陽健児は次回を期し午後四時ここに第一回会員大会は盛會裡にその幕を閉じたのであつた。

### 同窓会事務局便り

合田 孝治 (第一回)

大会でお約束した通り、同窓会の事務局も昨年九月末には完全に出来上り、十月四日辰馬会長、林校長先生に宮崎会長と共にお会いして正式に事務局を使用させてもらう事をお礼と共に話しつけて受領ごことに致しました。九月五日より毎週火、木曜の二日思出したの学校へ通つて事務整理を学生の指導室の一部を借りてやつていたので、内部を改装して立派な南向きの室を提供して戴いて、丁度昔の自分が学んだ辺りと思つて楽しい日々を過ごして同窓会の事をやつています。什器、備品も十月二十二日に整い、高校の校舎の中では一番良い室となつてゐるような状態です。

最初簡単に引受けた事務であつて丁度暇つぶしにと思つていたのが、先ず最初に大会の後始末、年会費納入の整理に思わぬ手間がかり、更に住所変更の整理と次々とやる事が多いのによつと大変な事になつたと思ひましたが、専任の南山さんの手助けでやつと十月中頃に軌道に乗り出しました。

こうなるという／＼と欲が出て来て、折角の同窓会の専用の室が出来たのだから学校の歴史と共に歩んだ同窓会の歴史を残すことを考え、皆様に寄つて貰つたとき一刻でも楽しく、次のような事を考えました。ぜひこれにはご協力して貰いたいと思つてゐます。

先ず卒業当時の各回毎の記念写真像を揃えたいのです。これは皆様の必要なものでしょうが、同窓会の室へ揃えるため置き場所を一時変えるという軽い気持で、写真像には自己の名前を書いて必要なきは持ち帰つて貰つても良いのですからお出し願ひたいのです。次に甲陽に関するいろいろのパンフレットや雑誌類を御寄贈下さい。どんなものでも良いのです。また同窓の方々にも随分自己の著書がおりと存じます。これも陳列しておきたいと思ひますので是非御寄贈をお願い致します。

同窓お互いの音信も出来る限り取次ぎの便とするように掲示板を備付け、一定の期間掲示して保存することとし、一年二度程度の定期的な発行する「甲陽だより」の資料とするように、常にこの準備を整える等思ひ出さず、完備するにほつたので、これが次々と出来ると本当の同窓会の室となり、同窓の方々の憩いの場となり、在校生の生徒達との絆ともなるのではないかと思ひます。この前に申しました通り、個人の力は小さいもので出来上ることになります。まだ／＼／＼と他に良いお考えなりご註文もあることと思ひます。無形のものより有形の同窓会の専用の室が母校の内に出来上つたのです。魂を入れるためどし／＼と御便りをお寄せ下さい。

最後にお願ひ致したい事は、台帳の整備および記入等には是非必要な事として卒業回数のご記入を忘れぬようにして戴きたいです。次々と交わつてゆく甲陽を受継いで、過去を憶い現代を考へることの出来る同窓会として充実させることに協力下さるようお願い致します。

追記 ちよつと御会いた機会に原清氏

(第五回卒朝日放送副社長)に原清氏に致したところ、早速氏の著書「素顔のソ連」「東欧と三つの椅子」二冊を寄贈して戴いております。高室の装飾として長浜光女史の書の額をも戴いております。

# 年会費協力について

合田孝治

会則の変更によつて同窓会の事務確立と維持その他の業務遂行のため、会員の皆様毎年補助の意味に会費を協力をし、誠に申し分ないものであります。今までのこのようにな事を呼び掛けた事も無く、全くどこまで皆様の協力を得る事が出来るかと不安で仕方なかつたのですが、幸ひ初めてのこの事に対して深い理解を得られたのか予想外の抱金が集まりました。財団、学校のご好意に依つて同窓会の事務室を提供して戴いた室に備品調度品の設備が出来上り、同窓皆様にお越し願つても悪い場所が不十分ながら持つ事が出来ました。

七月末に初まつたこの運動が、今なほ続きご協力して下さい。有難い事と思つてます。

なお振替用紙によつて振込んで戴いて居る分に対しては領収書は発行致しておりませんが、払込通知票によつて台帳に記入致して居りますので御請求下さるようお願い申し上げます。現金送付等の場合は同窓会より領収書を送りまして戴きます。振替番号は神戸八七四四甲陽学院同窓会です。尚銀行振等の場合には三和銀行夙川支店、神戸銀行今津支店にし、お忘れの方にも是非ご協力をお願い致します。現在のご協力を回期別に致しますと次のような状態です。

高商之部	回期	人員	回期	人員	回期	人員	回期	人員
1	11	39	15	20	21	1	31	
2	5	40	9	21	23	2	13	
3	14	41	9	22	19	3	13	
4	9	42	7	23	27	4	12	
		43	12	24	18	5	13	
		44	17	25	17	6	8	
		45	29	26	4	7	13	
		46	41	27	5	8	19	
		47	26	28	10	9	9	
		48	52	29	1	10	18	
		49	7	30	1	11	12	
				31	9	12	13	
				32	7	13	13	
				33	14	14	10	
				34	3	15	27	
				35	10	16	15	
				36	6	17	12	
				37	8	18	18	
				38	4	19	21	

(十一月三十日現在)

# ☆ 母校 だより

## 甲陽学院高校新聞から

43年9月23日号

◎ 運動部室でできる。照明設備も拡充  
林校長が強く推進している校内設備の改善は今年も続けられ、運動部の部室、サッカー部のネットがで、照明設備も拡充された。

◎ 七月から工事を始めていた運動部の部室は建坪百三十八坪のコンクリートボックスの建物で、工費は二百十万円、各部とも九月から移転して活動している。これは従来の部室が地下で暗く、湿気も多くて不衛生だといわれて建てかえられたのである。蹴球のネットは十餘万円、南側ゴールと藤棚の間に設けられ、歩行者の安全とボールストロブの両目的を果たす。

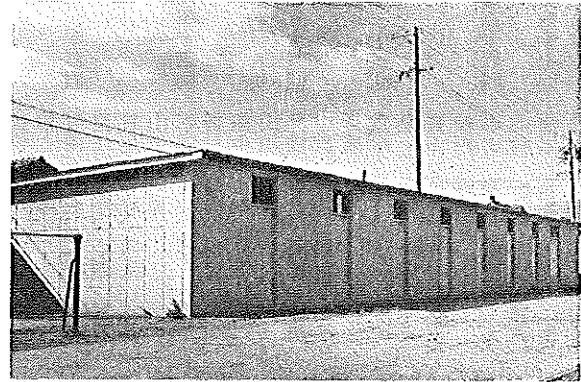
◎ 又、休み中を利用して教室の照明設備拡充が行われ、新学期から使用している。各教室とも蛍光灯が倍の六基に増加した。その他本館二、三階の廊下塗装、図書架の増設等々総工費は三百六十五万円に達している。

◎ 中学、八年ぶり甲陽戦に快勝  
九月十三日恒例の甲陽関学交歓競技大会が

甲陽中学で挙行され、甲陽が八年ぶりに勝利を得た。  
排球はわが方数日前に松崎君が負傷し危まっていたがチームワークよろしく見事2セット続けてとつた。

◎ 蹴球は過去通算1勝14敗で今年こそはと意気込んだのだが、生憎の雨と相手の闘志に圧倒され1対0で惜敗。  
籠球は昨年の雪辱を期し前半の出足は快調であつたが、後半関学の反撃に追込まれ40対40から遂に42対41と惜敗した。

◎ 蹴球も雨中悪条件下に行われたが4対2、1分で勝ち、卓球は三年の活躍により6対3で大勝、野球は立上り2点先取されたが



新しく完成した高校の「運動部室」

◎ すぐ取戻し、4対2で見事昨年の雪辱、水泳は各種目で両年新記録続出の好試合を演じ32対24で4年ぶりに勝利、陸上はトラックフィールドの条件わるく負傷者も出、記録も悪く結局敗れ、総合5-13で八年ぶり甲陽の優勝となつた。

◎ 高校、対鴨沢戦に連敗  
恒例の第38回対鴨沢高校定期戦は八月九日西宮市民陸上競技場で行われ33対27で惜しくも敗れ二連敗を喫した。

◎ 今年には両校とも全国大会に選手を出しており熱戦が予想されたが大会新が三つ出ただけで記録的には奮わず、フィールドに圧倒的強さをみせる鴨沢が終始リードを保ち勝利した。甲陽はトラックの400、400リレー、1600リレーに完勝したがフィールドに吉田しかなく敗れた。戦後の通算成績は甲陽の8勝10敗1分である。

◎ 全国高校野球、兵庫大会  
甲陽は一回戦不戦勝、二回戦はエース岸上の左腕が冴えて相手打線を完封すると共に岸上自らの本塁打などで御影高校に3対0で快勝した。三回戦は雨にたられたため岸上の調子が出ず、播磨一の実力を誇る市川高校に全員安打を浴び10-3でワールド負けを喫した。

◎ 御影 0 0 0 0 0 0 0 0  
甲陽 1 0 0 0 0 0 2 0 A  
3-0

◎ 甲陽 3 0 0 0 0 0 0  
市川 1 2 0 1 2 2 2  
10-3 (七回コールド)

◎ 全国高校選手権大会に三木安部二君出場(百十米JH)④三木 16秒3 失格(横庭S予選)井上(浜松)6-4安部(甲陽)三木は県大会で16秒0、近畿大会で16秒2何れも第六位の成績で全国へ駒を進めた。五日の予選では16秒3と本来の実力を十分出し切れず無念の涙をのんだ。  
安部は一年生の時南と組んでダブルス幼年の部で全国二位。シングルスでも同五位の実績があり期待されたが一回戦で浜松高の井上に6-4で惜敗した。

### 会員名簿整理について

一昨年創立五十周年記念として会員名簿を皆様のご協力によつて、同窓会には今までにない立派なものを作り上げ、お手許に持つておられる方々には満足して戴いていることと思ひます。しかしその名簿による第一回の書類発送であつた、四十三年七月の「甲陽だより」が(内容同窓会の会則変更、夏季大会の案内、委員選出氏名、等)左の方々の住所変更によりまして未着となつて返送されて来ませんでした。

同窓会としては五十周年を一つの域として台帳を整備して、万全を期しつつありますので、同窓の方々の左記の方々の住所又は勤務場所をご存知の方はお手数ですが同窓会事務室までお知らせ下さい。

#### 記

- 第一回 西村 章
- 第二回 水川 菅文、福本 久一
- 第三回 武蔵 正雄
- 第四回 富室 三郎
- 第五回 由良 隆直
- 第六回 魚井 突
- 第七回 原 孝和、小泉 清
- 第八回 上新 信幸、石井 猛
- 第九回 安部 武男、杉山 次郎(羽室)
- 第十回 小島 成一、横井 達夫
- 第十一回 木村 弘、高岡 市朗
- 第十二回 長尾卯一郎、笹井 清
- 第十三回 塩田 篤一
- 第十四回 中井 一彦、宮島 泰夫
- 第十五回 山鳥 辰夫、波田 兼治
- 第十六回 吉田 徳三
- 第十七回 松本 清、松岡 清
- 第十八回 安田 真一、大林 豊治
- 第十九回 山本 清、山根 和雄
- 第二十回 黒川 六郎、岸本 正八
- 第二十一回 松田 進、永井 康孝
- 第二十二回 阿部 博安
- 第二十三回 八木 卓爾、萩原 文二
- 第二十四回 尾上 早苗、永良 敬
- 第二十五回 三宅 陽一、福井 浩
- 第二十六回 岸本 平八、黒田正男

- 第十九回 吉田 穂之助
- 佐中 章三、中林 勉
- 中谷 一明、松田 正耕
- 村上 慎三、村田 滋
- 竹内 直彦、田口 哲郎
- 細川 健男、川谷 淑郎
- 川部 正義、横田 正隆
- 和田 久弥、馬場猪太郎
- 中島 清、小林 久夫
- 山本不二雄、武蔵 博達
- 榎本 能一、萩原 恒男
- 原 宏道、藤田 宗市
- 原 輝治、藤田 浩一
- 勝部 秀一、川野 浩一
- 河西 基
- 谷 卓朗、伊藤 正治
- 天池 聖、西松 剛康
- 村井 宏、持永 善尚
- 田中敬次郎、日田 豊晴
- 金谷 秀雄、山本 尚
- 吉野 秀郎
- 下倉 啓亮、笹倉 昭
- 阪口 博之、高橋 昭次
- 岩谷 博之、増島 文夫
- 浜 欣二郎、引間玄一郎
- 中条 正雄、神田 喜夫
- 阪口 昭二、内田 秀男
- 西中 弘
- 高島 稔雄、徳弘 昭平
- 谷元 和三、岩崎 陽一
- 大沢 浄人、坂田 保夫
- 大西 寿夫、菅 宏
- 柴山徳三郎
- 内田 和久、伊藤 博
- 松井 寛、武田 正巳
- 服部 隆男、福原 宏造
- 栗田 隆介
- 奥村 真吾、浅田 俊雄
- 余浦 憲佑、山崎 正巳
- 松浦 純一、西山 清雄
- 向井 徳昭
- 八木 頼夫、小林 弘
- 国府 彪、藤原 博
- 西村 昭緒
- 第三十一回
- 第三十二回 成住 俊二、山村 恭造
- 柳 正男
- 阪田 哲夫、成子 精彦
- 波江野亮平、中西 喜司
- 日比 守、勝間 脩
- 山下 博
- 杉田 江一、岡 映宏
- 新村 健吉、安藤 良明
- 西中 靖、逸見 隆二
- 山中 正照
- 井間 啓之、阿部 博
- 中村 功、福田 律
- 近藤 弘文
- 重村 洋一、上田 好一
- 泉 盛男、青田 寿史
- 高田 英一、竹村 雅之
- 神戸 睦夫
- 小山 嘉直、根東 亮
- 北村 一雄、大家 寛治
- 清水 正訓、岡村 衛
- 上田 堯、真嶋庸之助
- 宮里 正翼、竹中 美徳
- 山田 哲也、椋尾 秀雄
- 山田 恵男
- 酒井 豊、中村 保弘
- 高岡 且生、土塔 恒行
- 早崎 健、山口 哲資
- 政岡 一安、早崎 淳
- 広江 慎治
- 林 一郎、多田 昭次
- 村山 浩一、中川 治朗
- 東 辰彦、青島 一仁
- 下村 周
- 下村 安男、赤井 英夫
- 野原 清志、森田 好久
- 小林 勝義、山根 英治
- 大野 忠雄、上吹越正明
- 岡田 邦、石川 恒夫
- 赤川 史郎、水田 幸夫
- 縄田 和良、直島 俊介
- 益原 幹雄、灰谷 武
- 益子 伸二、小谷 朋之
- 今西 隆
- 第四十三回
- 第四十四回

**お願い**

このたび、母校に同窓会事務室が誕生しました。この機会に同窓会の歴史を飾る資料を収集し、保存、活用をはかることが意義あることと考え、会員の皆様より募集致したいと思ひます。そのような資料をお持ちの方は、次の要領をお読みの上、ご連絡下さいれば幸いです。

品目・卒業記念アルバム  
 ・その他資料として適当と思われる記録写真  
 ・記章、ペンナント  
 ・会員の著書、雑誌  
 ・その他、歴史的資料として保存、活用の価値ありと思われるもの。

連絡先 西宮市甲子園高潮町三番七号甲陽学院  
 院高校内同窓会事務室  
 電話西宮(〇七九八)①〇六二二  
 ②〇六二三  
 ③〇六二四

なお、寄贈を受けた品目は同窓会事務室に寄贈者氏名を明記し、展示します。

- 第四十五回 鈴木 俊雄、西本 頼正
- 清水 寿郎、中村 研一
- 竹中進一郎、田村 耕一
- 佐藤 敏夫、池田 勝昭
- 中塚 正、林 勝一
- 黒瀬 晃、小松 賢一
- 山本 昌男
- 山本 一色、永井 康徳
- 山口 静二、滝田 哲郎
- 平山 洋一、藤田 徹雄
- 小西 純平
- 高商第一回 徳永 卓郎、高野 謙司
- 岡本 英夫、田中 芳雄
- 財田 晃、久保 康仁
- 財田 良夫、佐々木 正良夫
- 岡 良夫
- 高商第二回 井沢 正篤
- 高商第三回 島村 直之、藤田 昌俊
- 松本 秀信、黒崎 英雄
- 高商第四回 福地 政興、平野 俊美
- 長谷川謙一、増尾 崇
- 柴崎雄二郎
- 旧職員 志山 頼道、野田 朔子
- 以上

### 同窓会委員会歩み

初めての試みである校外の同窓大会であるので、万全を期するため委員会の開催も二度開き、大会終了後も次期の方法の協議や、事務局開設の打合せ、甲陽日より発行の審議等を行いました。

◎昭和四十三年

- 七・二七 理事会。大会開催に伴う各部署における委員役割、その準備等
- 同窓会事務局設置に伴う専任事務員採用
- 八・一三 委員会。大会開催に伴う整理、決算等
- 一〇・一六 理事会。次期大会の開催方法、事務局設置に伴う備品購入の審議「甲陽日より」発行準備、年会費納入状態の報告等
- 一〇・三一 委員会。(新設同窓会事務局で初の会合)「甲陽日より」発行の時期、原稿の内容
- 一一・三 委員会。「甲陽日より」原稿整理及び割付け。

### 「会員大会」に初めて参加して

新卒生 安福 和夫

大学へはいりたての頃は、大学生だといふ幾分幼い自負心から、なるべく甲陽と手を切りたいという風に考えていた。ところがあさはかにも「新入会員招待」と書いてあるのを見てコロリとなびき、とにかく行ってみようという気になった。会場の宝塚ホテルに行つてみると、百人程の先輩氏や先生方に混つて、同じような考えから集つた三十人程の同輩諸君が来ていた。ほくら招待招待組は会長の挨拶とかを神妙に聞き取りをしながら本当は無視して、ただ食べる事と飲む事ばかり考えていた。それというのも大々先輩達の前ではほくらとは小さくなつていふしかなかつたからだ。先生方はほくらのかまきや回つて来て、元氣にやつとるか？とか某々はどうしてる？とか放切り型の質問を二三なされたが、初めて口にする白鹿とやらの銘酒は

ほくの頭をひどくモローとさせたので、会場の広間から抜け出して控室のソファで友人の親しい友人と話をしていた。誰々は革マールのシンパだとか、誰やらは安田講堂を占拠しているとかいう穏やかならぬ話が耳の端を通り過ぎて行つた。暫くすると、会場の方から万歳を三唱する声が聞こえ、ほくらたちの知らぬ間に会はお開きになつたらしくつた。ほくらたちは夕食の出なかつた事をアツアツ言ながら会場側の用意した花束を一つ持つて帰つた。何だか大々先輩たちとほくらたちの間の甲陽に対するイメージの断絶が感じられて寂しかった。

### 「会員大会」に初めて参加して

新卒生 吉倉 広幸

三月某、各地に散つていた友人に会えるのを楽しみに、新入会員として、初めて同窓会に出席したのですが、微辞につられて、万才の音頭を引き受けたのは、今でも思い出すとひとり赤面の思いがします。会場に入つてみて感じられた事は、出席者が、甲陽の古き良き時代の大大先輩と、受験競争時代の我々ばかりで、中層の先輩が極く少なく、対照的であつた事です。高校時代、何やかやと一番迷惑をかけた上念さんと話しているとか、何かまだ甲陽にいるような気がしたが、林校長や、特に授業を聞いていた限りではまじめな間を通つていた中島博先生の冗談を聞いていると、やはり甲陽時代には見られない先生方の側面が見えたようで、今でも思い出して、友人と笑い合つたりしています。テーブルが卒業年度別になつていたので、なかなか奥のテーブルの大先輩の方へは、行き難く話もできなかつたのですが、来年の同窓会では、辭いにかこつけて、色々話をしたいものだと思つています。

### 新刊紹介

「三つの椅子」

四回 原 消氏 牧羊社刊

朝日放送副社長として活躍中の氏の「新聞記者二十年、放送で十五年……しかも編集

須成の一本道をひた走つた私」と自任するようになり、広い教養に基いた対談集で、「放送朝日」に連載されたものの中より選ばれたもの

- 永 六輔、中村 八次、入沢 文明
  - 阿川 弘之、田中 千代、辻 豊
  - 今 東光、レゲツト、菊田 一夫
  - 高島 忠夫、岡本 太郎、小田 実
  - 伊藤 真明、熊 敏郎、手塚 治虫
  - 星 新一、谷川俊太郎、朝倉 摂
  - 河野 一郎、荒垣 秀雄、大宅 壮一
  - 兼高かおる、細川 隆元、小汀 利得
  - 岡部伊都子、牧村 史陽
- など各界の名士を相手に、巧みな著者の司会ぶりが見ものだ。

次に抄出するのは、ニューヨーク・ポスト紙の評論家ウィルソン、米田建築設計家パターソン、世界的喜劇俳優セラー、ブラジル放送界の大立物パレソの各氏とともに審査員となつて行われたミス・ユニバース・ページェントに関する一節である。

### ジャッジマンの三日天下

辻とところで、きようは原さんが「マイアミから帰つた男」というわけなんです……(笑)ミス・ユニバース・ページェントの審査員として、世界から選ばれた五人のうちの一入として、どんな観点から美女の評点をつけられたか。

またミス・ユニバースはどうして生まれるか現場で実際に活躍されて来た原さんから、その真相をききたいわけです。

原 アメリカへ渡つてから「何しに来たか」ときかれるたびに「ラジオ・テレビの視察、そして七月からはミス・ユニバースの視察、ジダ」というと、そこはフランクリーなアメリカ人、初めの方は忘れちゃつて、ミス・ユニバースのジャッジだということであつたとくるわけですね。「おれが代わりたいたい」などと冗談をいう。これはそれだけアメリカでミス・ユニバースの行事が非常に大衆化していること。それからそれに対して非常にフランクリーな気持ちで接しているということですから、こちらもちやえつて気が楽になりました

辻 美人たちに対する審査は、いわゆるコンテストの会場以外のところでもやるということですね。

原 ホテルとかレストランとか、パーティだとか、街頭パレードだとか、いろんな行事が引きつづいて行っているわけです。その間われわれは覆面でもつて探点をつづける……。

辻 いつからいつまでですか。

原 七月の十日から二十日まで十一日間。その間われわれが私服警官みたいに、ジャッジであることを秘して、各候補者の動作、個性を観察するわけです。

田中 態度とか何とか、いやな感じがあつたとか、そんなものを全部見られるそうですね。

原 ええ、こちらはバツジをつけていないから何者であるか分らないけど、彼女らはみんななすきをかけてるから一目瞭然……。実はわれわれは審査員のマークを十八日までつけなかつたのです。十八日にセミファイナルがあつて、そのときに初めてこれがジャッジだという五人が彼女らに紹介されたわけです。全世界から選りすぐつた五人の代表審査員として(笑)。

辻 それまでは覆面？

原 さよう。そのときに初めて紹介されてバツジを胸につけさせられたわけです。それから白と化した。そうするとね……。

原 もちろん。エレベーターに乗つても、ご婦人優先だと思つて、二つちがいつも通り「プリーズ」とかやつてると、「ジャッジ・ブリーズ」とか言つたりね(笑)。中にはウインクするやつもあるし、何とかして印象づけようと懸命ですよ(笑)。とにかく十八日から最終審査日まで、三日間は、もてましたね(笑)。

田中 我が生涯の最良の三日(笑)

原 ところが、この三日が過ぎたら、つまりミス・ユニバースが決定してしまつた途端鼻もひつかけませんわ(笑)。まことに三日天下でした。ことに落選したミスなんかには達うと、うらめしそうな顔してにらまれたりして……さつぱりいけません(笑)。



44年度

昭和四十四年度

入学志願者心得

西宮市中慶原町二番一五号

〔阪神電鉄香櫛園停留所下車南へ約十分〕

学校法人 甲陽学院中学校  
辰野育英会

一、募集人員 男子 約百六十名

二、出願期間 昭和四十四年二月十日(月) から二月二十一日(金)まで

三、出願手続 (1)本校事務室で入学志願者名票、写真台紙、調査書用紙を受け取る。(2)入学志願者名票に必要事項を記入し最近撮影の写真(縦七種・横六種脱帽半身 規定の台紙にはりつけること)と調査料(四千円)とを添えて事務室に提出し、入学調査票を受け取る。(3)調査書は、二月二十四日(月)までに本校に到着するよう出身小学校にお願いすること。

四、入学検査 (1)調査内容 ①出身学校から提出の調査書密査②筆答検査③面接④身体検査

(2) 検査期日 三月一日(土)まで

筆答検査(算数(五十五分)理科(四十五分)国語(四十五分))

三月二日(日)面接、身体検査、検査当日は八時二十分までに登校のこと。

五、合格発表 三月四日(火)午後五時本校内に掲示する

合格者は発表後直ちに玄関受付で入学検査票と引き替えに、合格通知書および入学に必要な書類を受け取る。

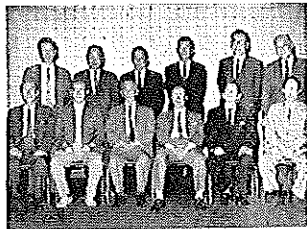
備考 入学金七万円授業料、生徒会費、育友会費計一か月約六千円ただし、将来情勢により変更することがある。

◎合否についての電話によるお問い合わせはご遠慮下さい。

会員だより

甲陽会(第一回卒)だより

今年第二回目の会合を例によつて宝塚ホテルで持つこととして六月二十三日に集まつたが、今回は旅行の人や集会の予約のあつた人々が意外に多くあつたので案外淋しい会合となつた。宮崎氏に同窓会長に再度就任して貰つた事や、同窓会も五十周年を記念として貰つた方向を定めて今暫くは一回卒のものに力な後盾となつてやりたい等、事務局も専用の室が出来来る事、今年に従来やつて来た総会を大会と改めて、校外(宝塚ホテル)でやる事などを報告し、協議して、例の如く和氣瀧々の懇談に終始して散会した。



「甲陽高商」第一回生同窓会

前略今度旧甲陽高商第一回生の同窓会を方ぶりに開催致しました。戦前の生徒出陣の同期生が大部分であり、各地から懐しい便りがありました。恩師大倉・吉田両先生も出席下さいました成長した教員達の昔の面影をさげくと思ひ出され若き日の懐旧談があちらこちらから出ました。開会に先立つて職没者の霊に対して哀悼の意を表しましたが特に今回の会合の通知を出しましたと同日時に



太平洋漁業経理部長黒田容弘君が病死したとの

通知を下関より実兄から電話を受け感無量なるものがありました次第です。

新宮市より一泊にてはるばると来神された小田七郎君を始め同期生が心よりお互いの健康を喜びあいました。今度は発起人柏井、小野、亀井、木村諸君が音頭を取りました。殊に木村君には結婚式を無事滞りなく終えて会合に出席されました事を心より嬉しく存じました。

これを動機として次年度の幹事を塚本、小菅、北村、百齋、谷山の諸君にバトンタッチをしました。なお、第一期生以後の旧甲陽高商の恩師を含めて卒業生達と共に母校並に同窓会の愈々発展の程を念願申し上げております。

おつて、同封の写真誠に不出来ではございませんが記念の為にお送り申し上げます。 敬具  
昭和43年11月26日  
甲陽高商第一回生卒  
桑田正造代

甲陽学院同窓会御中

「県甲会」の開催について

年の瀬の旧暦十二月十四日の土曜日、かねてより兵庫県職員(退職したものを含む)で結成している同窓会を、忘年会を兼ね、味の店神戸は穴門筋にある「かき十」で開催された。

多忙な時期でもあつたが、それでも旧高商旧中学、高校の各同窓二十名が午後一時に参集、林校長も臨席され、発展する母校の近況報告があり、高寺会長(尼崎市選出県議)以下、時の経つての忘れて旧談に花を咲かせ、母校と同会の躍進を祈り、万才を三唱して、夕方散会した。

なお、同会の名称を今後「県甲会」と呼ぶことに満場一致で議決された。

哀悼

下川慶治先生

旧制中学校の一回生からお教え下さつた柔道の下川先生は十月十四日死去された。先生は大坂柔道界の着宿、佐賀の座、明大

卒業後、本校並びに甲陽高商の柔道師範として永年の間指導下さつた。

短題ながら、気象の激しい九州男児らしい方で、指導は科学的であつた。お相手を願つた生徒が、よい業を掛けると、「いいところ」と歯切れのよい江戸つ子音で激励されたが、それを喜んだ人も多しはずである。本校柔道部が衰業を以て関西に鳴り、各種の大会で何度も優勝したことは、先生のお力によるところが大である。ここにご生前の徳を偲んで、深く哀悼の意を表するものである。

会員計報

吉川 敬一君(一回卒卒) 四十三年五月十二日死去される。君は甲陽より関大に進み野球部のマネージャーとして関大野球部と渡米せられた事もあり、その関係上プロ野球太陽ロビンスに参画せられた。田村勲に籍を置かれていた。

大本 演一君(一回卒) 四十三年十月三十一日死去される。郷里松山にて商工会議所議員等を務められた事もあり、戦後各地郷土の特産の頒布会等を起し、この蒐集に全国を巡る等の無理が長い間の病臥生活に繋りたる感してである。

山本 健次良君(二回卒) 四十三年七月死去される。小森家より磯原山重商店経営の山本家に迎えられ社長、重責を継がれて活躍せられて常に健康な、且つ端正な服装にて同窓会の会合に良く出席しておられた事を思い出します。

因に映画の山本富士子さんの伯父に当たられるのです。 宮部(用書) 芳雄君(八回卒) 八回卒の君は仁川小学校長として令名を馳せられていたが、九月十九日死去された。君は卒業後、御影師範二部に進み、県下の各地に歴任、仁川校に赴任するや児童の身体状況を見て、特に体育を奨励その経営見るべきものがあつたが、中道にして倒れたのは痛惜に堪えぬ次第である。

田淵 郁夫君(四回卒) 四四回卒の君は八月三十日、交通事故のため死去。本校卒業後、京大工学部に進み、来年は卒業で、大学院進学予定という有為の身を以て夭折したのは哀悼に堪えぬ次第である。